

一般社団法人

富山県臨床検査技師会会報

平成 30 年 12 月 18 日 発行 通巻 331 号

2019 1 月号

目次	論文募集のお知らせ・・・・・・・・・・	1 P
	生涯教育研修会日程・・・・・・・・・・	2 P
	今月・来月の行事予定表・・・・・・・・	4 P
	トピックス・・・・・・・・・・	5 P
	検査と健康展補報告・・・・・・・・・・	6 P
	臨床検査精度管理調査結果報告会・・	10 P
	シリーズ輸血・・・・・・・・・・	12 P
	珈琲ふれいく・・・・・・・・・・	15 P
	事務局からのお知らせ・・・・・・・・	16 P



TAMT 一般社団法人 富山県臨床検査技師会

Toyama Association of Medical Technologists

富臨技 E メールアドレス

tamt@jasmine.ocn.ne.jp

富臨技 ホームページURL

[http:// www.tamt2012.or.jp/](http://www.tamt2012.or.jp/)

ホームページもご覧ください。

発行所 一般社団法人 富山県臨床検査技師会	編集者 澤井真史 上野智浩 村椿智佳子
発行地 〒939-8222 富山市蜷川 336	柴山直美 油谷智史 石川幸和
富山県医師会館内	中河竜也 谷口直美 宮窪麻由美
TEL 076-429-4309	今村縁 清水雅彦 高柳由美
FAX 076-429-4569	中野壮城 齊藤良子 長沢昌恵
発行人 会長 南部 重一	宮崎しのぶ 丹羽弘枝 小路聡美
印刷人 一般社団法人 富臨技事務局・広報部	岡田佐恵子 林智津代 藤本寛之
編集責任者 広報部長 野村 亮	大橋美香 竹村さおり 宮脇夕佳
	細谷孝子

論文募集のお知らせ

富山県臨床検査技師会では、例年どおり平成 30 年 3 月に富山県臨床検査技師会誌を発行する予定で、準備を進めています。つきましては、本会誌に掲載する論文（未発表のもの）を募集致します。

投稿にあたっては、富臨技ホームページ『ダウンロード』にある論文作成投稿要領に従い作成し、メールで富山県臨床検査技師会 tamt@jasmine.ocn.ne.jp まで送付下さい。

なお募集期間は平成 30 年 11 月 1 日（水）～12 月 31 日（日）ですので、よろしくお願ひ致します。

平成 30 年度富山県医学検査学会開催のご案内

及び演題募集のお知らせ

日 時：平成 31 年 3 月 9 日（土）13：00～

場 所：富山県医師会館 4 階 会議室

演 題 募 集：平成 30 年 11 月 1 日（水）～12 月 31 日（日）

日臨技HP会員専用サイトから登録お願ひします

※問合せ先：富山県臨床検査技師会 学術部長

厚生連高岡病院 0766-21-3930（内線 3406）

中河 竜也まで

生涯教育研修会日程

参加される方は、日臨技会員証を必ずご持参ください。

非会員の方は、原則として 1 研修につき参加費 1,000 円を徴収します。

富臨技主催・共催

❖ 第 6 回北陸心電図セミナー

～スキルアップを目指そう！臨床医から学ぶ心電図判読のコツ～

日 時：平成 31 年 1 月 19 日（土） 13：00～16：50

場 所：福井済生会病院 東館 3 階第研修室

❖ 平成 30 年度認知症対応力向上講習会 B

日 時：平成 31 年 1 月 26 日 8：45～18：00

会 場：富山県済生会富山病院 2 階研修ホール

「認知症対応力向上講習会 B」の開催案内と参加登録方法は
富臨技 HP にも掲載してあります。

❖ 平成 30 年度 多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会

日 時：平成 31 年 2 月 24 日（日） 8：30～19：20

会 場：富山大学附属病院 多目的室

申込方法：日臨技 HP の会員専用ページから申し込みしてください

日臨技 or 中部圏支部主催

❖ 平成 30 年度日臨技中部圏支部 第 32 回生理検査研修会

多分野から役立つ知識を発見する ～広い視野検査に繋がる知識を求めて～

日 時：平成 31 年 2 月 9 日（土）14：00 ～ 10 日（日）12：00

会 場：名古屋コンベンションホール 4 階会議室

愛知県名古屋市中村区平池町 4-60-12 グローバルゲート

申込方法：日臨技 HP の会員専用ページから申し込みしてください

❖ 検体採取に関する厚生労働省指定講習会 重要

平成 27 年 4 月以降、検体採取等業務が臨床検査技師の業務範囲に含まれることとなりました。厚生労働省指定講習会を終了しないと新たな検体採取等の業務には従事できなくなります。有資格者全員の受講が求められます。

皆様早めに受講しましょう。

<http://www.jamt.or.jp>

H30. 11/28 現在の受講状況

会員数 (富山県) : 574 名

修了者 (富山県) : 332 名

未受講者 (富山県) : 251 名

修了率 : 富山県 57.8%

全 国 68.5%



◇実施可能となる業務

～検査のプロが責任を持って採取しています～

- ①鼻腔拭い液、鼻腔吸引液、咽頭拭い液その他これらに類するものを採取する行為
- ②表皮並びに体表及び口腔の粘膜を採取する行為 (生検のためにこれらを採取する行為を除く。)
- ③皮膚並びに体表及び口腔の病変部位の膿を採取する行為
- ④鱗屑、痂皮その他の体表の付着物を採取する行為
- ⑤綿棒を用いて肛門からの糞便を採取する行為
- ⑥基準嗅覚検査及び静脈性嗅覚検査 (静脈に注射する行為を除く)
- ⑦電気味覚検査及びろ紙ディスク法による味覚定量検査

※⑥⑦は省令で定められた生理学的検査への追加



富臨技（主催・共催） 行事予定表

1 月			2 月		
日	曜	開催予定行事	日	曜	開催予定行事
1	火		1	金	
2	水		2	土	
3	木		3	日	
4	金		4	月	
5	土		5	火	
6	日		6	水	
7	月		7	木	
8	火		8	金	
9	水		9	土	
10	木		10	日	
11	金		11	月	
12	土		12	火	
13	日		13	水	
14	月		14	木	第 10 回理事会
15	火		15	金	
16	水		16	土	
17	木		17	日	
18	金	第 9 回理事会	18	月	
19	土	第 6 回北陸心電図セミナー	19	火	
20	日		20	水	
21	月		21	木	
22	火		22	金	
23	水		23	土	
24	木		24	日	平成 30 年度 多職種連携のための臨床検査技師能力開発講習会
25	金		25	月	
26	土	平成 30 年度認知症対応力向上講習会 B	26	火	
27	日		27	水	
28	月		28	木	
29	火				
30	水				
31	木				

トピックス

「検査と健康展」～L-KAT ブースに参加して～

高岡市民病院 吉原 有理奈

12月1日『世界エイズデー』の日、「検査と健康展」のL-KATさんのブースに参加させていただきました。L-KATとはLet's Know AIDS in Toyamaの略で、音楽や芸術を通じてエイズに関する正しい知識を広めることを目的とする非営利団体です。L-KATさんは、近年人々のエイズに対する関心が薄れ感染予防がおろそかになっているという危惧から、イベントを行うことで、多くの人にエイズに対する関心を持ってもらう「きっかけ」を作りたいと考えています。

朝の準備が終わり打ち合わせの時にL-KAT代表の堀本さんより「考えていることは相手に伝わります、今日はエイズのことを知ってもらいたいという気持ちを持って過ごしてください！」という言葉やL-KATの啓発活動への心意気を聞き、私自身もなるべく多くの人に知識を持ってもらいたいという気持ちが湧いてきました。

実際に呼び込みをしていると、活動の様子を写真に撮っていかれる方やクイズに参加される方が多くいらっしゃって意外に興味を持ってくれる人もいるという印象でした。この日、自分がした声掛けが誰かのきっかけになっていたら嬉しいなと思います。



こだわりのデザインのステッカー→

←L-KAT ブースに参加した
メンバー



参考：L-KAT (facebook)

<https://ja-jp.facebook.com/lkat2011/>

平成 30 年度 検査と健康展 in TOYAMA 平成 30 年 12 月 1 日(土)

今年度もイオンモール高岡にて「検査と健康展 in TOYAMA」が開催されました。



イオンモール入り口 ・メイン看板



『スタッフ集合写真』



『 骨密度測定 』
私の骨は大丈夫？



『 血管年齢測定 』
私の血管は何歳？



『 肺年齢測定 』
頑張って一気にはいてみましょう！



『 貧血検査 』
私は大丈夫？



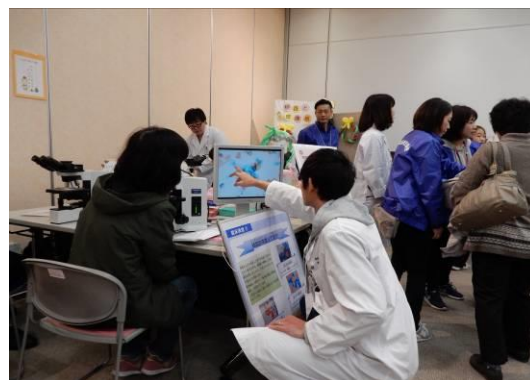
『 認知症検査 』
大丈夫かな？



賑わっている様子 ①



『 エコー体験 』
長靴の中身は何でしょう？



『 顕微鏡をのぞいてみよう！ 』
何がみえるかな？



賑わっている様子 ②



『 バルーンアート作成中 』



『 健康相談 』
臨床検査専門医 原田先生

エイズ予防啓発活動（L-KAT）



『 受付風景 』



『 セントラルコート真上から 』



『 バルーンアートも 』



『エイズについての解説風景 ①』



『エイズについての解説風景 ②』



『 利長くんも応援に来てくれました 』

今年度もお子様からご年配の方までのべ 650 名を超える多くの来場者がありました。広く臨床検査技師の仕事の内容、エイズに関する知識を伝えることができましたと思います
協力していただいたスタッフの方々、ありがとうございました。

北日本新聞と富山新聞に

「検査と健康展」の記事が掲載されました。

■定期健診の大切さ知って
高岡 県臨床検査技師会（南部重一会長）は1日、高岡市下伏間江のイオンモール高岡で、さまざまな検査体験ができる「検査と健康展 in TOYAMA」を開く。
 生活習慣病やがんの早期発見のため、定期的な健康診断の重要性を呼び掛ようと、全国で展開されている行事の一環。血管年齢や骨密度、肺年齢を測定できるほか、今年新たに認知症検査を実施する。同日の「世界エイズデー」に合わせたクイズや、子ども向けに白衣姿で記念撮影ができるコーナーも設ける。
 医師による健康相談を含め、参加は無料。午前10時から午後4時まで。問い合わせは県臨床検査技師会、電話076（429）4309。

<北日本新聞 12月1日掲載>

物忘れ度合い調べる
高岡で検査と健康展
 県臨床検査技師会の「検査と健康展」は1日、高岡市のイオンモール高岡で開かれ、来場者が健康的な生活の大切さを実感した。
 認知症の可能性を見極める物忘れプログラム体験が初めて実施され、来場者は日付や曜日などを答えて物忘れの度合いを調べた。指先をセンサーに置いて血管年齢を測定するコーナーもあった。エイズ予防啓発活動も行われた。

<富山新聞 12月2日掲載>

平成 30 年度臨床検査精度管理調査結果報告会について

平成 30 年 12 月 2 日（日）富山県医師会館にて平成 30 年度臨床検査精度管理調査結果報告会が開催されました。はじめに富山県臨床検査精度管理協議会会長である北島勲先生と富山県医師会から長谷川徹先生の挨拶がありました。その後、各部門からの調査結果の報告がありました。その報告に対してコメンテーターの先生や、北島先生、高柳先生をはじめとするフロアーから、アドバイス、激励、問題点などの貴重な意見をいただきました。

引き続き「臨床検査室の品質保証～信頼される臨床検査室を目指して～」と題して熊本保健科学大学保健科学部教授 池田勝義先生の特別公演がありました。昭和 50～60 年代には当たり前だった施設間差が技術の進歩でほとんど無くなり、だからこそ標準化と品質保証、そして精度管理が非常に重要であると再認識させられました。

各部門の責任者の皆様、2 年間お疲れ様でした。

広報部

< 特別講演 > 臨床検査室の品質保証

～信頼される臨床検査室を目指して～

熊本保健科学大学 保健科学部 医学検査学科

熊本保健科学大学大学院 保健科学研究科 保健科学専攻

教授 池田 勝義 先生



司会 北島 勲 先生



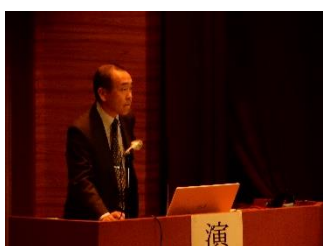
病理細胞検査部門
頼成 明奈 氏



血液検査部門
森 真樹子 氏



生理検査部門
三島 美幸 氏



輸血検査部門
小嶋 修 氏



一般検査部門
岩崎 浩 氏



微生物検査部門
清澤 麻紀子 氏



免疫血清検査部門
嶋田 孝紀 氏



生化学検査部門
岡田 美和 氏



基準値統一化委員会
石橋 一裕 氏



閉会挨拶 富山県臨床検査技師会会長
南部 重一 氏

シリーズ「輸血」

テーマ「最近の話題」

2018/7/12 富山県輸血懇話会 業務連絡会

第 192 回



担当 富山県赤十字血液センター 学術・品質情報課

<h3>最近の話題</h3> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 血液製剤等に係る遡及調査ガイドラインの一部改正について ➢ 血小板製剤による細菌感染について ➢ E型肝炎ウイルス(HEV)感染について ➢ 診療報酬改訂(2018) ➢ 新鮮凍結血漿の融解後使用期限延長について <p style="text-align: right;">富山県赤十字血液センター 学術・品質情報課</p>	<p style="text-align: right;">平成29年10月</p> <h3 style="background-color: red; color: white; padding: 5px;">「輸血用血液等の遡及調査に関するガイドライン」(日赤)の改訂について</h3> <p>1. 感染症検査の推定ウインドウ期間(WP)及び遡及機関の変更</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th>個別NAT</th> <th>個別NAT(-)</th> <th>血清学的検査</th> <th>個別NAT(+)</th> </tr> <tr> <th>WP</th> <th>遡及期間</th> <th>WP</th> <th>遡及期間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>HBV</td> <td>21日</td> <td>42日</td> <td>36日</td> <td>72日</td> </tr> <tr> <td>HCV</td> <td>3~5日</td> <td>10日</td> <td>65日</td> <td>130日</td> </tr> <tr> <td>HIV</td> <td>5日</td> <td>40日</td> <td>19日</td> <td>68日</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right;">* 各WP×2倍。HIV: WP×2倍+30日。</p> <p>例) 個別NAT陽転時の遡及調査(HBVの場合): HbC抗体(-)</p>		個別NAT	個別NAT(-)	血清学的検査	個別NAT(+)	WP	遡及期間	WP	遡及期間	HBV	21日	42日	36日	72日	HCV	3~5日	10日	65日	130日	HIV	5日	40日	19日	68日
	個別NAT		個別NAT(-)	血清学的検査	個別NAT(+)																				
	WP	遡及期間	WP	遡及期間																					
HBV	21日	42日	36日	72日																					
HCV	3~5日	10日	65日	130日																					
HIV	5日	40日	19日	68日																					
<p>2. 遡及調査における医療機関への情報提供の変更</p> <p>【評価】*対象</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px;"> <p>○リスク1: ウイルスの混入が確認された血液 当該輸血用血液製剤の保管検体の個別NAT(+)</p> <p>○リスク2: ウインドウ期に採血された血液 当該輸血用血液製剤の保管検体の個別NAT(-)</p> <p>○リスク3: ウインドウ期に採血された可能性が否定できない血液 当該輸血用血液製剤の保管検体の個別NAT(-)</p> </div> <p>*対象外</p> <p>☒リスク4: 今回の血液が、HBVに関する検査法や判定基準独自の問題で不合格とされた場合 当該輸血用血液製剤の保管検体の個別NAT(+) 合否判定基準の変更(HBV既往)</p> <p style="text-align: center; background-color: yellow;">変更開始日: 平成29年11月1日検査分より</p>	<p style="text-align: right;">1712-156</p> <h3 style="background-color: #ADD8E6; padding: 5px;">血小板製剤による細菌汚染について</h3> <p>◆ 症例概要 【患者情報】10歳未満の女児 【原疾患】AMLの再発に対して同種骨髄移植実施 【輸血製剤】Ir-PC-LR-10(採血後4日目) 投与量20mL 【血液製剤培養及び菌型試験結果】大腸菌(Escherichia coli)</p> <p>◆ 過去の細菌感染症例(2009年~2016年): 8例/190例 (8症例、全てPC)</p> <p>◆ 細菌汚染のリスク: 1例/年間(約80万本)</p> <p>◆ 血小板製剤の外観検査 ①凝集・凝固物の有無 ②色調の変化 ③スワーリングの有無</p> <p>◆ 輸血実施における注意事項 ①観察を十分に行い、症例が現れた場合には輸血を中止し、患者の血液培養を行う。 ②輸血開始後の十分な経過観察(約5分間、15分間、輸血終了後)</p> <div style="border: 1px solid red; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>※医療機関へのお願い: 使用済みバッグの保管</p> </div>																								

人血小板濃厚液の使用時の安全確保措置の周知徹底について

〔平成29年12月4日付薬生安発1204第2号、薬生血発1204第1号
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全課長、生活衛生局血液対策課長通知〕

- (1) 人血小板濃厚液の使用により、細菌等によるエンドキシンショック、敗血症等があらわれることがあるので、**観察を十分に行い、症状があらわれた場合には輸血を中止し、適切な措置を行うこと。**
- (2) **外観上異常を認めた場合は使用しないこと。**
- (3) 輸血中は患者の様子を適宜観察すること、すくなくとも**輸血開始後約5分間は患者の観察を十分に行い、約15分経過した時点で再度観察すること。**
- (4) 輸血に際しては副作用発現時に救急処置をとれる準備をあらかじめしておくこと。
- (5) 輸血には同種免疫等による副作用やウイルス等に感染する危険性があり得るので、他に代替する治療法等がなく、その有効性が危険性を上回ると判断される場合にのみ実施すること。
- (6) 輸血を行う場合は、その必要性とともに感染症・副作用等のリスクについて患者又はその家族等に文書にてわかりやすく説明し、同意を得ること。

E型肝炎ウイルス(HEV)について

◆症例概要

【患者情報】80歳代 女性
【原疾患】多発性骨髄腫
【輸血製剤】Ir-RBC-LR-2
【転帰】複合的な要因(高齢、長期の薬剤投与、HEV感染)

◆輸血によるHEV感染症症例数(2011年～2017年): 19例

◆肝炎ウイルス感染リスクに関する注意事項

- ① HEVについても、必要に応じて、肝炎ウイルスマーカー等の検査を実施。
- ② 原疾患の治療等のために免疫系が抑制された場合には、肝炎ウイルスの感染や慢性化等のリスクがあることを考慮。

※日本赤十字社における安全対策

- ① 問診: プタ、イノシシ、シカ等の内臓生肉等を一定期間内に摂取
⇒6ヶ月間、献血辞退(3/12～)
- ② HEV検査(NAT): 全ての献血血液に対して1～2年後を目途に実施予定。

輸血用血液製剤の使用時の安全確保措置の周知徹底について

〔平成30年2月1日付薬生安発0201第1号、薬生血発0201第1号
厚生労働省医薬・生活衛生局医薬安全課長、生活衛生局血液対策課長通知〕

1. 肝炎ウイルス感染リスクに関する注意事項
 - (1) 輸血用血液製剤の使用により、HEV、B型肝炎ウイルス(HBV)、C型肝炎ウイルス(HCV)等の肝炎ウイルスに感染し、発症することがある。HBV、HCVについては、添付文書において、感染が疑われる場合等には患者の輸血前後の肝炎ウイルスマーカー検査等を実施し、患者の経過観察を行うこととされているが、HEVについても、必要に応じて、**肝炎ウイルスマーカー検査等を実施し、患者の経過観察を行うこと。**
 - (2) 感染が認められた、又は症状があらわれた場合には適切な処置を行うこと。なお、現疾患の治療等のために免疫系の抑制を伴う処置が必要な場合は、肝炎ウイルス感染による肝障害等のリスクを適切に考慮すること。
 - (3) HEVについては、検査方法や治療方針等を必要に応じて肝疾患診療連携拠点病院等の肝臓専門医に相談することも考慮すること。
 - (4) 輸血用血液製剤は、HBV、HCVについての検査には適合しているが、供血者がウインドウ期等にあることによる感染リスクが存在することに留意すること。
 - (5) 肝炎ウイルスの感染が疑われる場合は、製造販売業者が行う輸血用血液製剤の適正使用のために必要な情報の収集に協力するよう努めること。
2. 感染リスクに関する一般的な注意事項
 - (1)～(4)

血液等に関する診療報酬の改訂について
—平成30年4月現在—

➤ 新規追加

- ・コンピュータクロスマッチ加算(K920): 30点
- ・自己クリオプレシピテート作製術(用手法): 1,760点

➤ 変更(点数、材料)

輸血等に関連する診療報酬

【検査料】

検査項目	区分番号	点数
血液交叉(適合)試験	K920	30点
間接クームス検査		47点(34点)
コンピュータクロスマッチ		30点

- 輸血に伴って、血液交叉試験、間接クームス検査又はコンピュータクロスマッチを行った場合は、1回(血液バッグ1バッグごと)につき30点、47点又は30点をそれぞれ加算する。ただし、コンピュータクロスマッチを行った場合は、血液交叉試験加算及び間接クームス検査加算は算定できない。
- コンピュータクロスマッチ加算は、「輸血療法の実施に関する指針」(改定版)(平成26年11月)を遵守してコンピュータクロスマッチを実施した場合に算定する。

「輸血療法の実施に関する指針」

V 不適合輸血を防ぐための検査(適合試験)及びその他の留意点

1. 検査の実施方法 2) 交差適合試験

(4) コンピュータクロスマッチ

あらかじめABO血液型、Rho(D)抗原型検査と抗体スクリーニング検査により、臨床的に問題となる抗体が検出されない場合には、交差適合試験を省略し、ABO血液型の適合性を確認することで輸血は可能となる。

……必要な条件は、以下のとおり。

- ① 結果の不一致や製剤の選択が誤っている際には警告すること
- ② 患者の血液型が2回以上異なる検体による確認されていること
- ③ 製剤の血液型が再確認されていること

輸血等に関連する診療報酬		
【その他】		
検査項目	区分番号	点数
自己クリオプレシビート作製術(用手法)	K924-2	1,760点
別に厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において、自己クリオプレシビートを用いた場合に算定する。		
【施設基準】 「特掲診療科の施設基準等及びその届出に関する手続きの取り扱いについて」 (平成30年3月5日保医発0305第3号) * 自己生体組織接着剤作成術、自己クリオプレシビート作製術(用手法)の施設基準に係る届出(報告)書添付書類		

輸血等に関連する診療報酬			
【検査料】			
検査項目	区分番号	点数	
患者の血液型検査	ABO式及びRh式	K920	54点(48点)
	ABO血液型関連糖転移酵素活性	D011	191点(196点)
Rh(その他の因子)血液型	D011	156点(196点)	
直接Coombs試験	D011	34点(47点)	
HIV-1,2抗体定性又は半定量、抗原・抗体同時測定定性又は定量	D012	118点(121点)	
HBc抗体半定量・定量	D013	141点(145点)	
HCV抗体定性・定量・HCVコア蛋白	D013	111点(114点)	
D013区分の3~14までに掲げる検査5項目以上		447点(460点)	
HBV核酸定量	D023	279点(287点)	

輸血等に関連する診療報酬		
【その他】		
検査項目	区分番号	点数
術中術後自己血回収術	K920	濃縮及び洗浄を行うもの 4,500点
		濾過を行うもの 3,500点
自己生体組織接着剤作成術(自己生体組織接着調整システムCryoSeal system)	K924	4,340点(1,400点)
特定保健医療材料		材料価格
輸血用血液フィルター(カリウム除去用)		5,010円(5,200円)

2018年9月

新鮮凍結血漿の融解後使用期限延長のお知らせ
— 新鮮凍結血漿の添付文書改訂及び製剤ラベル変更について —

1. 対象製剤

一般名	販売名	略号
新鮮凍結人血漿	新鮮凍結血漿-LR「日赤」120	FFP-LR120
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」240	FFP-LR240
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480	FFP-LR480

2. 添付文書の主な改訂内容について

「用法及び用量」の「融解後3時間以内に」の記載を削除し、「使用上の注意」に「融解後は直ちに使用すること。直ちに使用できない場合は、2~6℃で保存し、融解後24時間以内に使用すること。」を追記しました。

3. 今後のスケジュールについて

新添付文書及び新製剤ラベルを使用した製剤は、6か月間(180日間)の貯留保管後に順次供給を開始します。

製造販売承認事項 一部変更承認

2018年 9月26日

2019年 3月

2019年 9月

旧添付文書・旧製剤ラベルを使用した製剤の供給*3

貯留保管(6か月間)

混在して供給される期間

新添付文書・新製剤ラベルを使用した製剤の供給

*3 新添付文書・新製剤ラベルを使用した製剤の供給開始後も、有効期限内は旧添付文書・旧製剤ラベルを使用した製剤が供給されます。旧添付文書が封入された製剤も、新添付文書の内容が適用されます。

2018年9月

新鮮凍結血漿の融解後使用期限延長のお知らせ

— 新鮮凍結血漿の添付文書改訂及び製剤ラベル変更について —

1. 対象製剤

一般名	販売名	略号
新鮮凍結人血漿	新鮮凍結血漿-LR「日赤」120	FFP-LR120
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」240	FFP-LR240
	新鮮凍結血漿-LR「日赤」480	FFP-LR480

2. 添付文書の主な改訂内容について

「用法及び用量」の「融解後3時間以内に」の記載を削除し、「使用上の注意」に「融解後は直ちに使用すること。直ちに使用できない場合は、2~6℃で保存し、融解後24時間以内に使用すること。」を追記しました。

珈琲ぶれいく



寒い季節になってきましたが、いかがお過ごしでしょうか？家族で困んでも友人や同僚とでも美味しく食べられる鍋料理は、寒い日には格別のごちそうになってくれるのではないのでしょうか。

以下は、全国の 20～30 代の男女 1,044 人を対象に「みんなの食べたい鍋ランキング 2018」のアンケートを実施した結果です。

みんなの食べたい鍋ランキング 2018」を発表！

- 1 位 すき焼き
- 2 位 キムチ鍋
- 3 位 しゃぶしゃぶ
- 4 位 もつ鍋
- 5 位 鶏の水炊き



1 位は「すき焼き」でした。なんと 7 年連続の首位獲得です！牛肉や野菜にすき焼きのタレが染み込んで、旨味がじわっと感じられますよね。すき焼きに続く鍋にはキムチ鍋、しゃぶしゃぶ、もつ鍋が続いてランクインしています。そして第 5 位の「鶏の水炊き」は「鶏肉が好き」というシンプルな理由ながら昨年の 7 位からランクアップし、見事ベスト 5 入りを果たしています。

好きな鍋の具ランキングトップ 10 も発表！

- | | |
|--------|-----------|
| 1 位 白菜 | 6 位 ネギ |
| 2 位 豚肉 | 7 位 大根 |
| 3 位 豆腐 | 8 位 しらたき |
| 4 位 牛肉 | 9 位 えのき |
| 5 位 鶏肉 | 10 位 しいたけ |



見事 1 位に輝いたのは「白菜」でした。肉類では牛肉と鶏肉をおさえて「豚肉」が上位にランクインし、その理由は「脂が出てうまみが出る」と解答した方がいたのだとか。

みなさんの食べたい鍋、好きな具はランクインしていましたか？

個人的に気になっているのはチーズ鍋ですが、栄養たっぷりの美味しいお鍋を食べて寒い冬を乗り切りましょう！！

事務局からのお知らせ

富臨技求人情報

NO	地域	施設種類	職種	雇用内容	人数	備考
1	呉東地区	検診	臨床検査技師	正職員	1名	パート可
2	呉東地区	検診	臨床検査技師	正職員	数名	パート可
3	呉西地区	クリニック	臨床検査技師	正職員	1～2名	
4	呉東地区	病院	臨床検査技師	非常勤	1名	
5	呉西地区	病院	臨床検査技師	正職員	1名	パート可
6	呉西地区	病院	臨床検査技師	非常勤	2名	

お問合せは

理事 富山市医師会健康管理センター 石川 幸和 (イシカワ ユキカズ) まで 076-422-4122

当会では、施設から提出された求人情報のみ会報並びにホームページ上で公開し、個人の紹介及び検索行為は行いませんのでご了承ください。尚、掲載期間は2ヶ月間とさせていただきます。

入退会について

富臨技への入会および退会には、日臨技とは別の手続きが必要です。富臨技ホームページに入会、退会様式がありますので印刷、記載のうえ、富臨技事務所まで提出をお願い致します。

講習会・研修会の開催について

富臨技主催・共催の講習会や研修会を開催する際、富臨技との共催・後援名義使用許可申請書を事前に提出することになりました。使用許可申請書は富臨技ホームページ上にありますので、富臨技会長宛てまで送るようにしてください。

あとがき

平成最後の年となりました。平成31年と言えるのもあと数ヶ月です。次の元号はどのようになるか気になりますね。富山県技師会も新しいホームページ、さまざまな研修会や学会へ向けた準備などが多く控えています。新しい年を迎え、気持ちも新たにいろいろなことに取り組みたいです。

学会のテーマ募集も引き続き行っていますので、皆様振るってご応募してください。会員の皆様の勉強会や研修会等の情報や御報告、そのほか掲載を希望する情報がございましたら、お気軽に富臨技広報部までご投稿お願い致します。宛先は tamt@jasmine.ocn.ne.jp



❖ 平成30年度 会報1月号(通巻331号) 発行

会報編集：富山県臨床検査技師会 広報部